

## 2022年度日本プライマリ・ケア連合学会関東甲信越ブロック

## 第2回議員総会議事録

開催日時	2023年1月28日（日）19:00～20:00
開催場所	ZOOM会議
議事進行	大西 弘高 支部長
議長	喜瀬 守人 先生
記録	関東甲信越ブロック支部事務局（東京大学大学院医学系研究科 医学教育センター/ 医学教育国際協力学部門内）

## 1. 開会

支部長より、本日時点の関東甲信越ブロック支部学会の投票権を持つ参加者 306 名（学会代議員数 302 名、その他役員 4 名）の内、直接の出席者 42 名（開会時点で）、提出された委任状が 99 通であったことが報告され、関東甲信越ブロック支部規約「第 24 条 議員総会定足数」の開催の条件（代議員総数の 3 分の 1 以上）を満たしており、開会が宣言された。

## 2. 支部長挨拶

活動方針の概要について（スライド P4 参照）

- 以前は、顔の見える関係を作ることが強調されていたが、コロナ禍でオンライン化が急速に推進された。気軽に様々な会合に参加しやすいという利点もあり、この流れをしばらく継続する。
- オンライン中心となると、コミュニケーションの頻度が少なくなることが危惧され、より頻繁にオンライン会合を開くことが望ましいとの意見がある。

他学会との連携状況について（スライド P5 参照）

## 3. 議長選出

支部長推薦により喜瀬守人先生が議長に選出された。

## 4. 協議事項

## 議題 1：ブロック支部の体制と役割について

大西支部長よりスライドを用いて下記事項の説明がなされた後、協議が行われた。

- 1.1 各都県支部の現況（スライド P9 参照）：特に協議なし
- 1.2 関東甲信越ブロック支部と都県連絡委員会の関係（スライド P10 参照）：特に協議なし
- 1.3 ブロック支部から各都県支部への支援（スライド P11 参照）：特に協議なし
- 1.4 現在の都県連絡委員会の体制（スライド P12 参照）：特に協議なし
  - 委員長ポストが、現在空席だが大きな支障はなく、各都県支部長とブロック支部役員間のバランスが取れていれば大きな問題はないだろうとみている。
  - 幹事ポストの看護師について、看護師部会の方に打診しているが連絡が途切れている状況。

- 監事について、前回の議員総会で空席の状況は望ましくないとの議論があったが、これまで議論する場がなく、昨日都県連絡委員会でのどのように対処していくかを協議した。

#### 1.5 監事の決定プロセス (スライド P13 参照)

大西支部長が、3月末までに決定プロセスを進めていくことで合意。

#### 1.6 次期ブロック支部長選任 (スライド P14 参照)

#### 1.7 2023年度第12回ブロック支部地方会主管について (スライド P15 参照)

#### 【質問】

南郷栄秀先生：これまで12回の地方会を開催しているが、地方会を所管していない県支部があるのか？ある場合、次の順番はどこか？

支部長：未開催は、山梨県支部と栃木県支部。準備が必要だと思うので、今回はブロック支部で開催し、時間をかけて準備いただくということも考えている。

※栃木県支部主管の地方会が2011年に実施された旨のコメントがあり、記録を訂正。

南郷先生：開催したことのある都県支部が主催するということはないのか？

支部長：候補の県があれば良いが、今のところない。

南郷先生：各都県支部で開催する意義は、その県のプライマリ・ケアを盛り上げ、県内から参加しやすくなり、専門医を目指す方たちが増えることを期待できることにある。オンライン開催では、誰でも参加でき、県を盛り上げることにはならず、どこが主管かは重要ではなくなってくる。ブロック支部が直接対応することができるのであれば、毎回それでも良いのではないか。

コロナ禍で他ブロック支部でもオンライン地方会を開催するところが多くなり、該当するブロック支部以外からの参加者も歓迎しているので、ブロック支部としてそれぞれ実施することによりあまり大きな意味をなさない気もする。学術大会、春季・冬季セミナーと似たようなものであれば、あえて労力をかけてブロック支部でやる意義があるのか、その議論がなされているのか疑問。

支部長：ブロック毎のオンライン地方会は、何が地域なのかという議論が他のブロック支部でもあると思う。明日のブロック支部会合で協議したい。

議長：23年度地方会に関しては、早めに決定する必要があるため大西先生にお任せする形になる。それ以降に関してそのどのような運営の体制が望ましいかも含めて継続協議とする。

#### 議題2：直接補助活動の予算措置

スライド P17 にて大西支部長より説明。特段の異議なく承認された。

### 議題3：その他

特になし

## 5. 報告事項

### 報告1：令和4年度若手医師向け事業（鋪野紀好先生）

若手医師向けの事業として、オリエンテーション企画と継続支援企画を行っている。

- オリエンテーション企画は、毎年4月、他のプログラムの方々とも連携ができるよう、専攻医同士がコミュニケーション取れる場所を設けている。今年は、日本専門機構が主催するオリエンテーションとは別の日程で開催する予定で、開催日が決定したら各プログラムの方で専攻医や指導医に声をかけて頂きたい。
- 継続支援企画は、ポートフォリオの作成などでもコアとなるような「患者中心の医療」や sdhs 等諸々のテーマについて年4回開催している。毎回約100名前後の参加者を得ている。2023年度も継続していきたい。

### 報告2：令和4年度ブロック支部地方会報告（東京都支部 藤沼康樹先生）

- 昨年12月4日（日）完全オンラインとオンデマンドでの配信で開催した。オンデマンド配信をやることで、企画やワークショップ等演題発表の列を多く作ることができた。
- 参加登録者数：330名（事前登録189名、当日参加登録が141名）。当日登録が結構多く、宣伝は前日まで行うのが重要だと感じた。
- 演題は31題（講演13題、ポスター18題）。論文やパブリッシュに結びつけるための支援として賞を設定し、賞金を出した。HPができれば受賞者発表を行う。収支は最終決算前だが損得なし。

### 報告3：令和5年度ブロック支部地方会進捗

議題1で報告済

### 報告4：各都県支部報告

#### 東京都支部 藤沼康樹先生：

昨年夏から急遽支部長になった。それ以前から運営に関わった先生方にご尽力いただき、地方会の開催に全力を尽くした。次年度も活発に活動していきたい。

#### 茨城県支部 横谷省治先生：

保健医療福祉に関する勉強会を年6回のペースで開催している。現在はオンラインでの開催。次回は2月13日（月）に「プライマリ・ケアにおけるメンタルヘルスの問題への対応」という内容で開催予定。他県からのご参加をお待ちしている。

#### 群馬県支部 高柳亮先生：

年1回の講演会を開催。今後は、若手の先生方を巻き込んでいくことが課題。3月19日に聖隷浜松病院の森先生をお招きして「ACPに関する最新のエビデンス」をテーマに講演会の他、総会開催を予

定している。

**埼玉県支部 石田岳史先生：**

- 毎年 11 月に研究会を開催している。
- 22 年度は 11 月 18 日に「これからのプライマリ・ケアにおける ICT」というテーマで開催した。埼玉県では昨年在宅医療の先生が殺害されるという、非常に恐ろしい事件が発生したが、埼玉県看護協会の方から在宅医療現場におけるカスタマーハラスメントの問題点、また大塚医院の大塚先生から ICT を活用した地域の病院とクリニックの情報共有に関する紹介が行われた。
- SPART (埼玉のプライマリ・ケアをアートする) という若手医師のオンライン勉強会も紹介した。特別講演として武藤紳助先生にポストコロナのプライマリ・ケアを受ける ICT テストで海外の事情も含めてご紹介いただいた。ハイブリッドで開催し 100 名 近くの参加者があった。

**千葉県支部 林直樹先生：**

- 千葉県プライマリ研究会と共同で昨年 11 月 20 日に学習集会と総会を行った。テーマは、「コロナ禍の他職種連携から学ぶ」。新型コロナ感染症発生以来、2 年以上経つが各医療機関、各職種が不安の中で診療を行ってきた。その中で保健所を中心とした行政との連携も非常に密になってきている。これからの地域連携は行政含めることが重要であり、この経験をそれぞれ共有しようというもの。
- ハイブリッド形式で 約 70 名の参加があった。保健所関係者から全体的な活動状況、連携の状況を紹介いただいた。また看護師、薬剤師、医師、歯科医それぞれの立場の状況についてシンポジウムを開催。実体験が非常に良く伝わってきて大変良いシンポジウムであった。県支部としての活動は、まだ脆弱で会員数も 50 名程度。先ほど支部地方会の主管の話があったが、県内部での活動や連携が日常的にはそれほど密ではないところもある。総合診療について地域の中で認知度を上げるためには、学会、ブロック支部との関わりを深めていくことが大事と考える。

**新潟県支部 矢部正浩先生：**

一昨年設立した新潟大学医学部**医学科総合診療学**講座の上村教授を中心に、プライマリ・ケア研究会が、昨年 8 月にオンライン会合を開催。その他、同大学が中心になり学生、若手医師または総合診療に関心のある医師のための教育コンテンツを作る活動を主にオンラインで行っている。

**長野県支部 鈴木貞博先生：**

- オンラインにて理事会を 2 回開催。来年度は総会開催のための準備を行いたい。
- 信州大学と佐久病院などの専攻医を受け入れている基幹病院を中心に長野県合同ポートフォリオ発表会が 1 月 14 日に開催され、長野県支部が**後援を行った**。
- 当支部は 2011 年のブロック地方会を開催しており、記録集を作成し発表者に送付した。ご希望の方は、当地方会 HP 上の篠ノ井病院の住所に請求頂ければ送付する。

**栃木県支部 矢吹拓先生：**

- 今回から副支部長という形で担当している。若手からベテランの先生まで様々な活動があり、一昨年頃からこれらを同じ団体として活動の統合を図っているところ。
- 栃木プライマリ・ケア研究会の定例会、県内に3つある家庭医療プログラムの連携の定期的なポートフォリオ発表会が行われている。その他、支部としての総会定例会に加えて昨年度は、専攻医がウィメンズヘルスの単位がなかなか取れないということで、**森町家庭医療クリニックの鳴本敬一郎先生**に「役立つ更年期診療」について講演頂いた。
- 全体の支部会活動の活性化と他の活動が重複しているところがあり、支部としての活動をまとめていくのが難しい。

**山梨県支部 古屋聡先生：**

コロナ禍で支部活動が難しい状況であった。甲府共立病院を中心に専攻医教育、ポートフォリオ共有等の活動を行っている。今後、世代交代も含めて活動を行っていききたい。

**(まとめ 大西)**

オンラインでの活動が中心になり、地域と全国の各活動の住み分けをどうするかということは、非常に本質的で重要な問いだ。その中で、若手を盛り上げていくこと、プライマリ・ケアの中での各職種の役割についての協議を、任期中にもう一步進めていきたいと考えている。

**報告5：その他**

特になし

以上を持って、2022年度第2回の議員総会は終了となった。